

令和元年東日本台風の出水概要と 阿武隈川緊急治水対策プロジェクトについて

令和2年12月

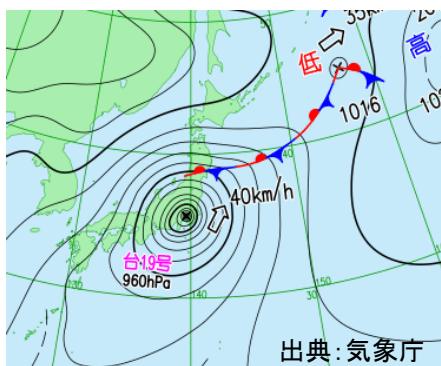
国土交通省 東北地方整備局

令和元年東日本台風に伴う降雨の概要

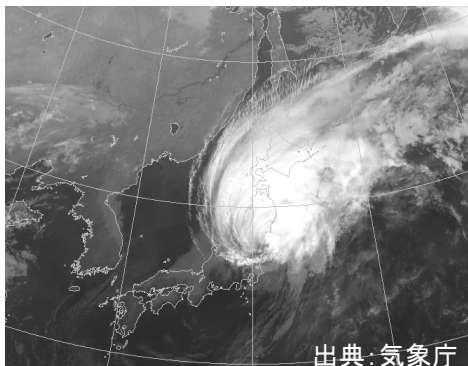
・令和元年東日本台風に伴う降雨では、阿武隈川流域全域にわたり平均253mmの雨が激しく降り、戦後最大であった昭和61年(8.5洪水)や平成の大改修の契機となった平成10年(8.27洪水)を上回る雨量が観測された記録的な降雨であった。

天気図と気象衛星画像

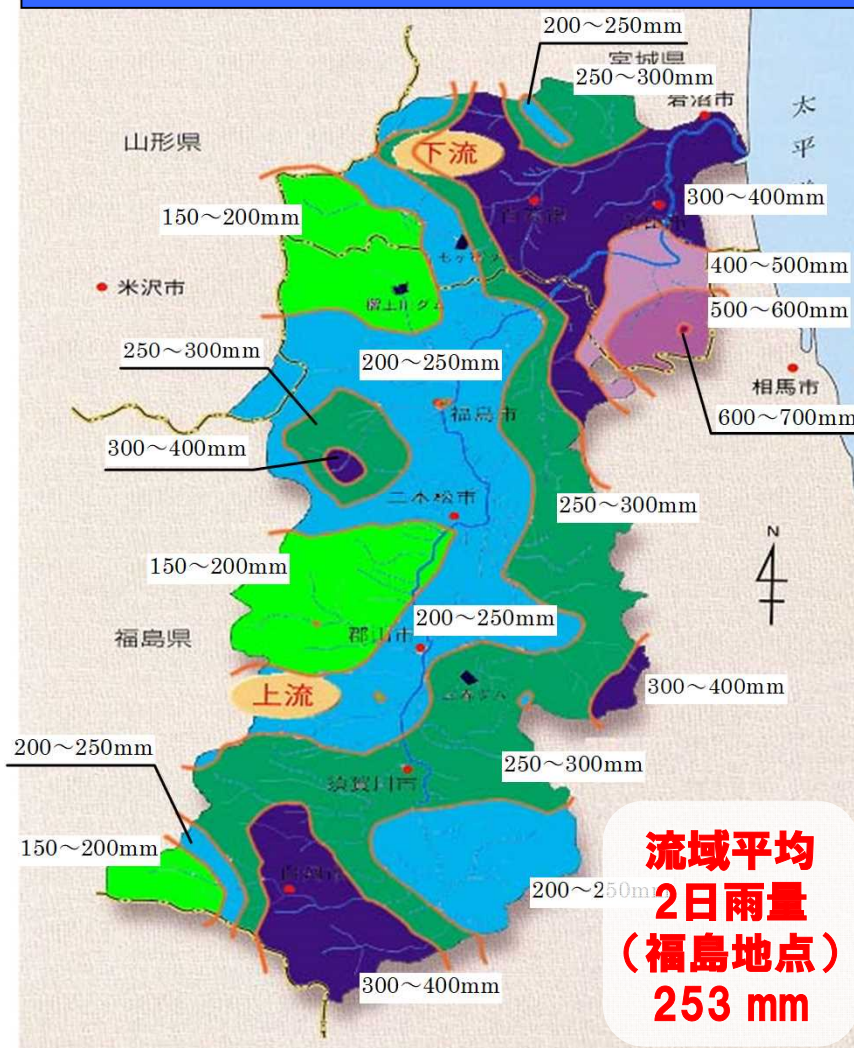
天気図(10月12日21時頃)



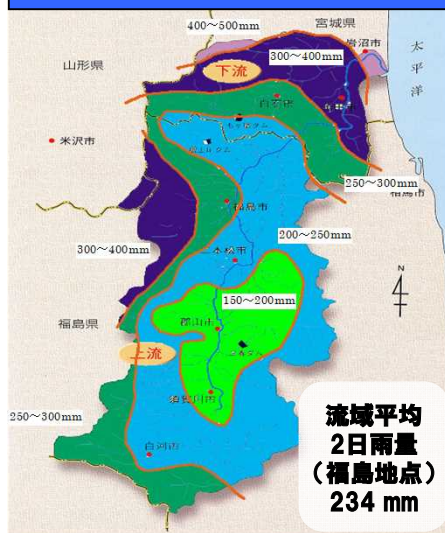
気象衛星画像(10月13日1時頃)



【令和元年東日本台風】



昭和61年8月洪水



平成10年8月洪水



令和元年東日本台風に伴う出水時の水位状況

- 阿武隈川および荒川について、**基準観測所10箇所中9箇所**で既往最高水位を観測。
- 基準観測所10箇所中9箇所では**はん濫危険水位を超過し、特に本宮・阿久津(郡山市)・須賀川地点においては、計画高水位※を超過。**

※ 河川管理上の基準とする水位の一つであり、この水位以下で計画高水流量を安全に流下させることができるようにする河川整備や、橋梁などの許可工作物設置に際して考慮すべき基準の一つとなるもの

【福島県側】

観測所名	伏黒	福島	二本松	本宮	阿久津	須賀川	八木田
読み	ふしぐろ	ふくしま	にほんまつ	もとみや	あくつ	すかがわ	やぎた
水系名	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川
河川名	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川	荒川
位置	右66.10K	左77.10K	右106.60K	左118.10K	右133.60K	左147.90K	左1.40K
計画高水位	7.27	6.56	13.18	9.29	8.68	7.99	3.46
所在地	福島県伊達市伏黒	福島県福島市杉妻町	福島県二本松市安達ヶ原	福島県本宮市大字下町	福島県郡山市大字阿久津	福島県須賀川市大字江持	福島県福島市須川町
計画高水位	7.27	6.56	13.18	9.29	8.68	7.99	3.46
はん濫危険水位	5.00	5.40	10.40	7.90	7.90	7.70	2.00
避難判断水位	4.50	5.10	10.10	6.30	6.80	7.10	1.30
はん濫注意水位	4.00	4.00	6.50	5.00	5.50	4.50	1.20
水防団待機水位	3.00	3.00	5.50	4.00	4.00	3.50	0.50
既往最高	昭和23年9月17日 6.00	昭和61年8月5日 5.90	平成23年9月22日 11.57	昭和16年7月23日 9.63	平成23年9月21日 9.20	昭和16年7月23日 9.00	平成1年8月6日 2.50
R1.10.12洪水	令和元年10月13日 1:30 6.34	令和元年10月13日 3:20 6.43	令和元年10月13日 4:50 12.80	令和元年10月13日 2:10 9.73	令和元年10月13日 1:30 10.01	令和元年10月13日 7:20 9.61	令和元年10月12日 23:10 2.55
	既往 1位	既往 1位	既往 1位	既往 1位	既往 1位	既往 1位	既往 1位
				計画高水位を 44cm超過	計画高水位を 133cm超過	計画高水位を 162cm超過	※ 10月14日時点の 10分データでの整理

【宮城県側】

観測所名	丸森	笠松	岩沼
読み	まるもり	かさまつ	いわぬま
水系名	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川
河川名	阿武隈川	阿武隈川	阿武隈川
位置	右37.20k	右28.10k	左8.10k
計画高水位	23.70	17.99	8.25
所在地	宮城県伊具郡丸森町船場	宮城県角田市枝野寄井	宮城県岩沼市阿武隈
計画高水位	23.70	17.99	8.25
はん濫危険水位	22.30	17.00	8.20
避難判断水位	22.00	16.60	7.90
はん濫注意水位	19.50	14.50	5.00
水防団待機水位	18.00	13.00	4.00
既往最高	昭和16年7月23日 22.65	昭和61年8月5日 17.10	昭和16年7月23日 8.04
R1.10.12洪水	令和元年10月13日 4:40 23.49	令和元年10月13日 5:00 17.48	令和元年10月13日 6:00 7.17
	既往 1位	既往 1位	既往 6位

【須賀川市】江持第一樋管(145.6k付近)



令和元年東日本台風による被害概要（福島県側_上流）

決壊： 1箇所
 越水：計19箇所
 （約8,200m）
 溢水：計6箇所
 ※箇所数は福島県側を集計

浸水面積：約3,200ha
 浸水戸数
 床上：約9,300戸
 床下：約2,200戸
 ※面積・戸数は福島県側を集計



※河川カメラ、痕跡調査等により確認した箇所を一連区間等で記載
 ただし、一部、一連区間の中で越水・溢水が生じていない箇所もある。
 ※数字は概算であり、今後の調査で変更となる可能性がある。



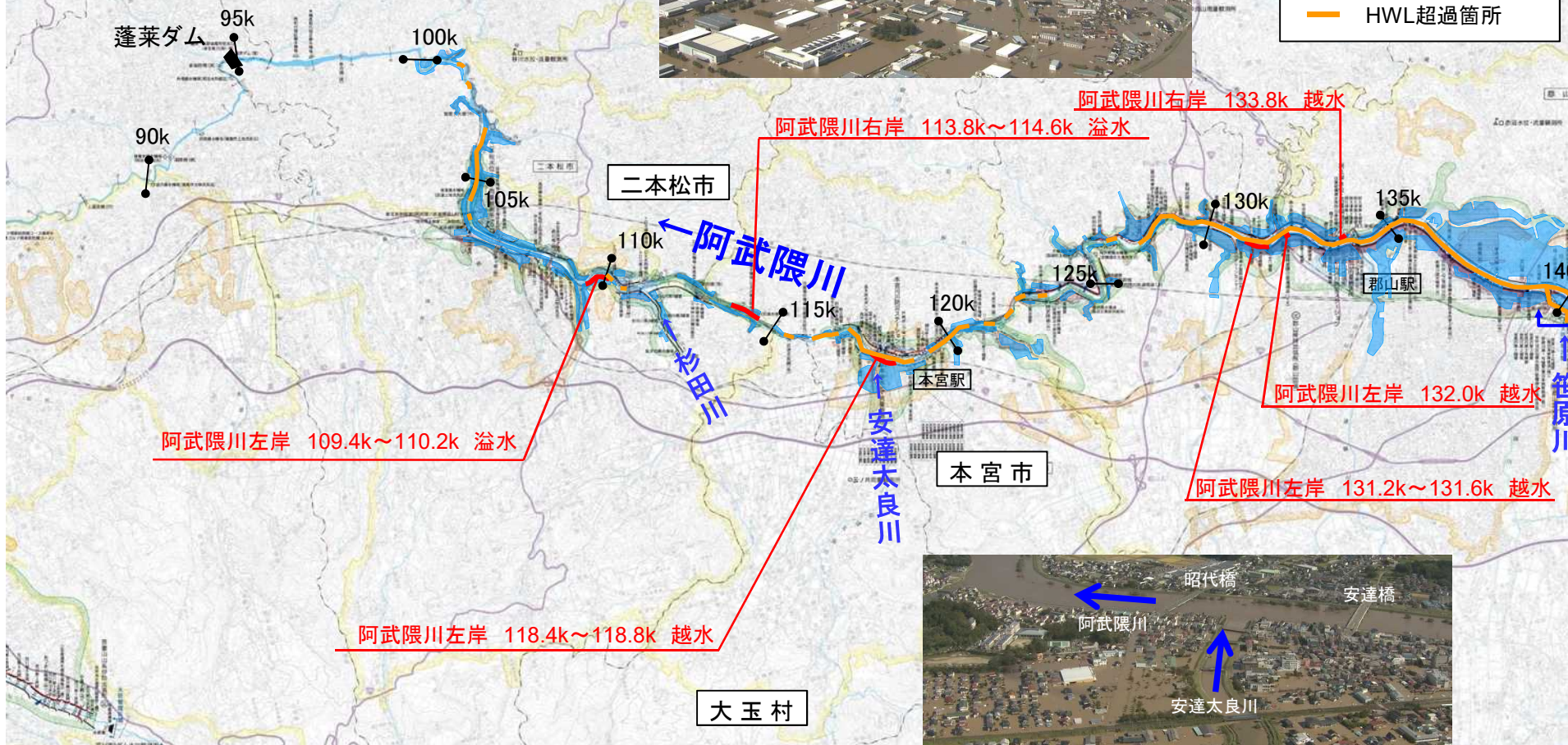
令和元年東日本台風による被害概要（福島県側_中流）

決壊： 1箇所
 越水：計19箇所
 (約8,200m)
 溢水：計6箇所
 ※箇所数は福島県側を集計

浸水面積：約3,200ha
 浸水戸数
 床上：約9,300戸
 床下：約2,200戸
 ※面積・戸数は福島県側を集計



- 《凡例》
- ⊗ 堤防決壊箇所
 - 越水・溢水箇所※
 - 浸水箇所
 - HWL超過箇所



※河川カメラ、痕跡調査等により確認した箇所を一連区間で記載
 ただし、一部、一連区間の中で越水・溢水が生じていない箇所もある。
 ※数字は概算であり、今後の調査で変更となる可能性がある。

令和元年東日本台風による被害概要（福島県側_下流）

決壊： 1箇所
 越水：計19箇所
 (約8,200m)
 溢水：計6箇所
 ※箇所数は福島県側を集計

- 《凡例》
- ⊗ 堤防決壊箇所
 - 越水・溢水箇所※
 - 浸水箇所
 - HWL超過箇所

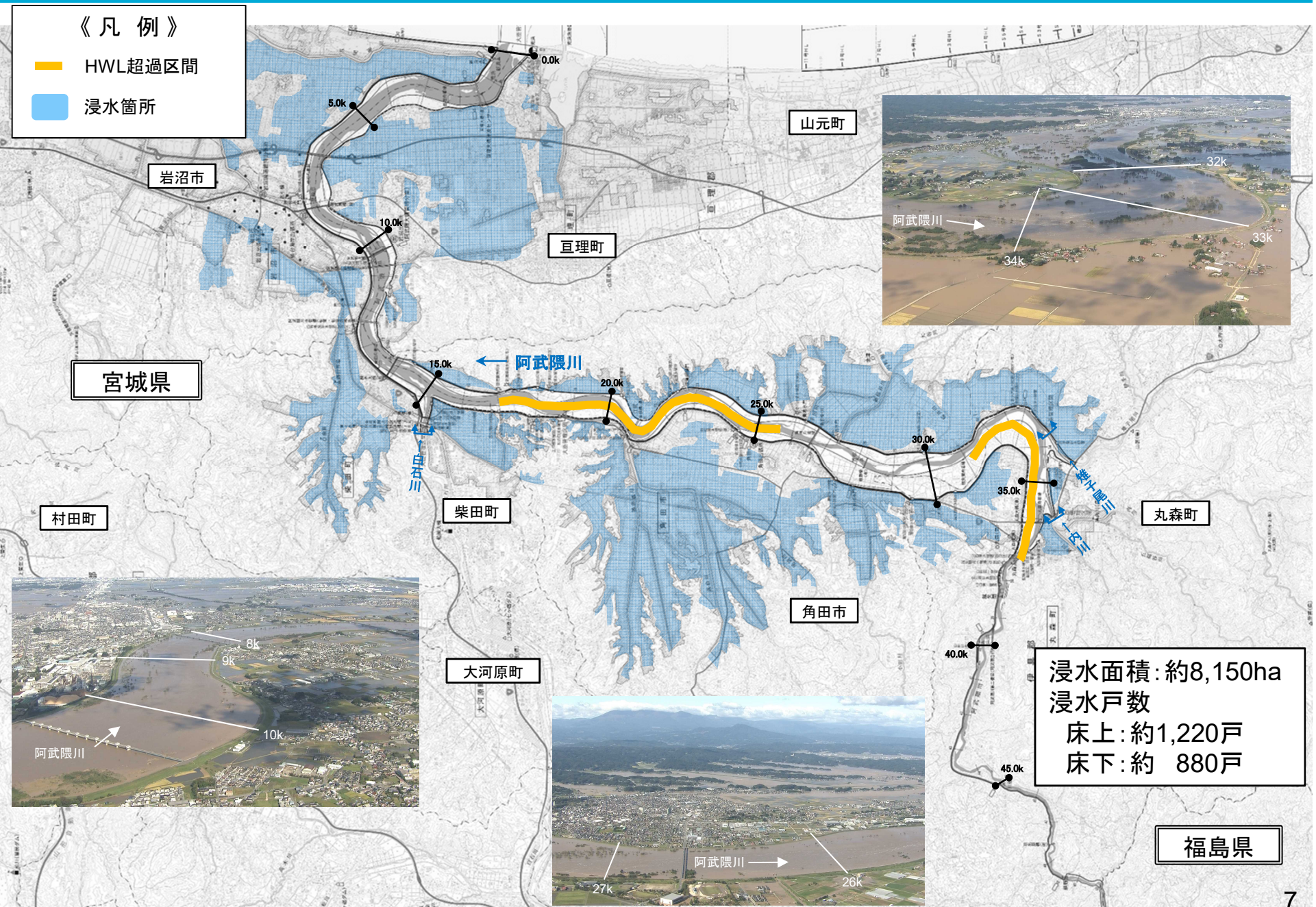


浸水面積：約3,200ha
 浸水戸数
 床上：約9,300戸
 床下：約2,200戸
 ※面積・戸数は福島県側を集計

※河川カメラ、痕跡調査等により確認した箇所を一連区間等で記載
 ただし、一部、一連区間の中で越水・溢水が生じていない箇所もある。
 ※数字は概算であり、今後の調査で変更となる可能性がある。

国土院 国土情報センター 国土情報センター 国土情報センター

令和元年東日本台風による被害概要（宮城県側）



浜尾遊水地（須賀川市）の貯留効果

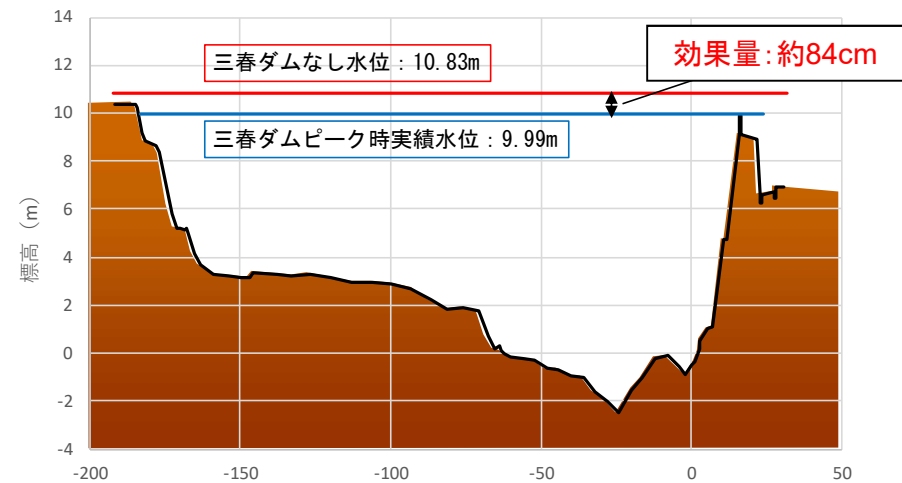
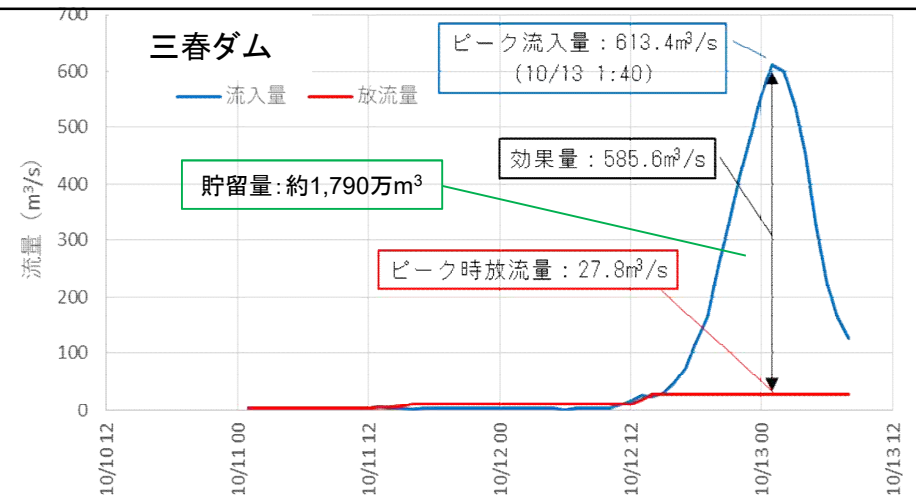
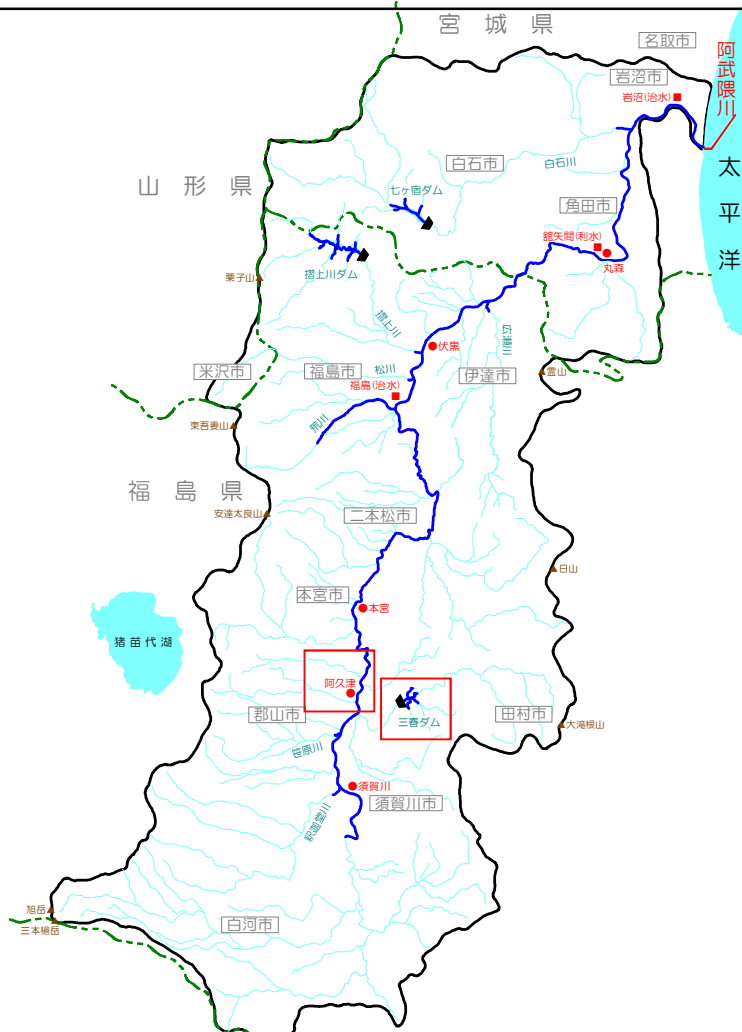
○平成の大改修で事業着手した浜尾遊水地(須賀川市)では、東京ドーム約2杯分の量(約260万 m^3)※を貯留し、これにより須賀川水位観測所で約30cm※水位を低下させるなど下流河川の流下水位を低下させ、越水箇所を減らしたり越水氾濫の時間を短縮し、須賀川市下流部や郡山市の浸水被害を軽減させたと推定される。 ※速報値



三春ダム（三春町）の防災操作（洪水調節）による水位低減効果

- 令和元年東日本台風では、阿武隈川支川大滝根川の三春ダムでは、防災操作（洪水調節）を実施した。
- 総雨量は292.5mm（11日1時～13日4時）、最大流入量は $613\text{m}^3/\text{s}$ （13日1時40分）で、そのときの放流量は $28\text{m}^3/\text{s}$ と防災操作によりピーク時には $585\text{m}^3/\text{s}$ の効果を発揮した。
- 防災操作により、下流の阿久津地点（郡山市）においては、**約84cmの水位低減**が図られた。

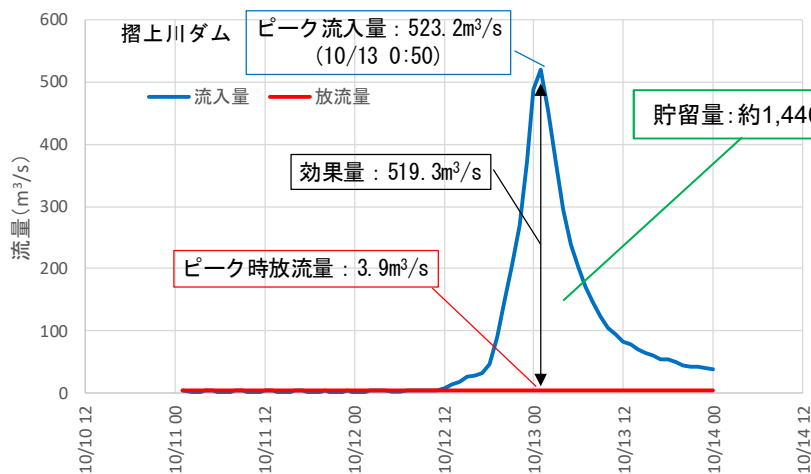
これにより、阿久津地点の**越水の時間を短縮し**、**阿久津地点（郡山市）の破堤を防いだ可能性**がある。 ※速報値



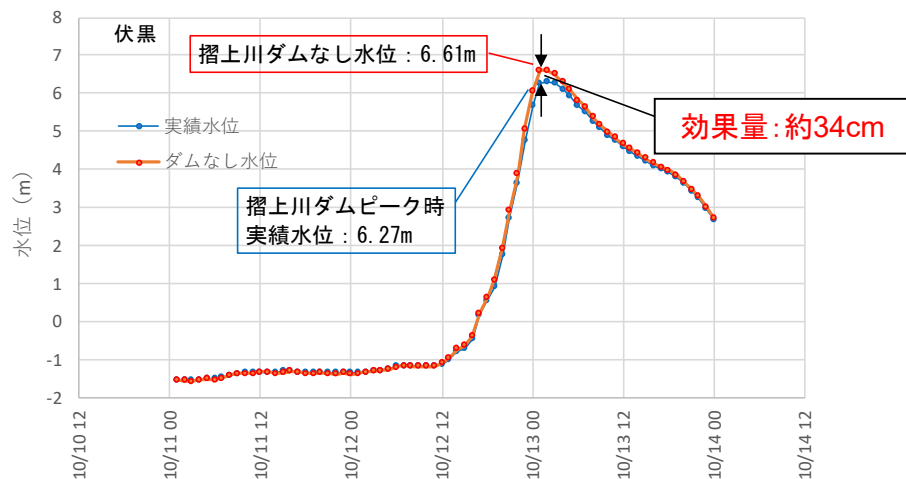
阿久津地点の河川水位比較

摺上川ダム（福島市）の防災操作（洪水調節）による水位低減効果

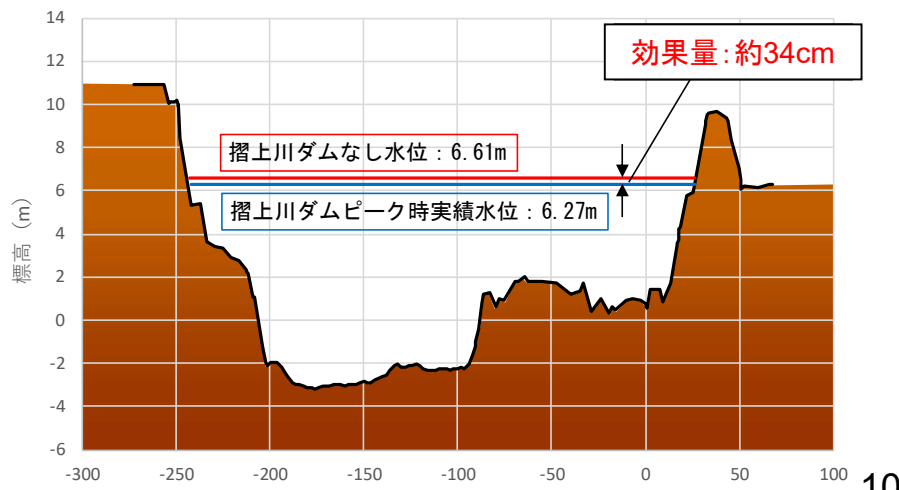
- ・令和元年東日本台風による降雨に伴い、摺上川ダムでは防災操作（洪水調節）を実施した。
 - ・摺上川ダムにおいては、最大流入量は $523\text{m}^3/\text{s}$ （13日0時50分）で、そのときの放流量は $4\text{m}^3/\text{s}$ と防災操作によりピーク時には $519\text{m}^3/\text{s}$ の効果を発揮した。
 - ・今回の防災操作により、下流河川（伏黒地点）において、河川水位を約34cm低減させたと推定される。
 - ・もしダムがなかった場合には、さらに河川がはん濫する恐れが高まっていたと推定される。
- ※速報値



防災操作実績図（速報値）



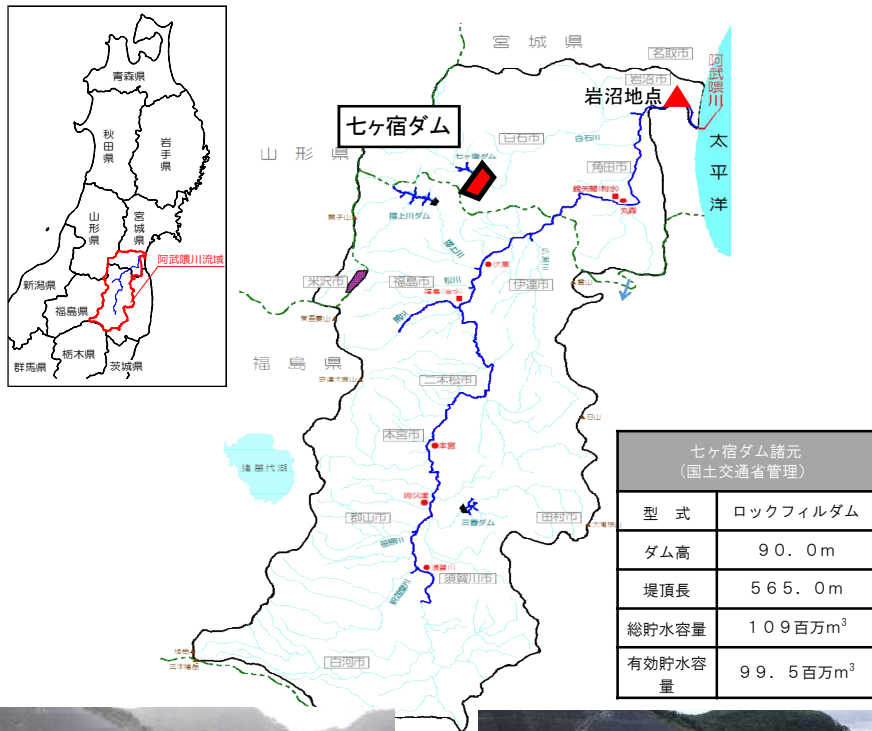
伏黒地点における水位（速報値）



伏黒地点の河川水位比較

七ヶ宿ダム（七ヶ宿町）の防災操作（洪水調節）による水位低減効果

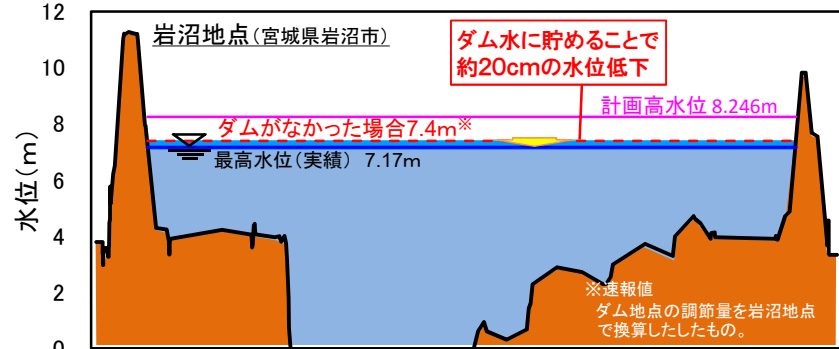
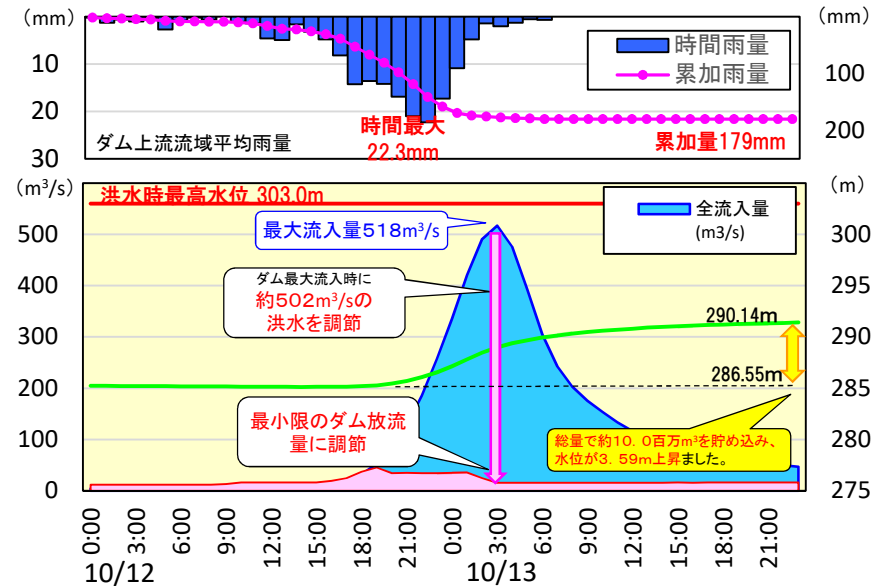
- ・ 台風19号に伴う降雨により、七ヶ宿ダム地点の累加雨量は179mmに達し、最大流入量は毎秒518m³/sを記録し管理開始(H4)以降、第3位を記録した。
- ・ ダム下流への放流量を最小限にとどめ、ダムに流れてくる水量（約10.0百万m³※東京ドーム約8個分）を最大限貯め込み、ダムが無かった場合に比べ、ダム下流の岩沼地点（宮城県岩沼市）の河川水位を約20cm低減することが出来たと推定される。



10月12日15:00時点の貯水位状況



10月14日9:00時点の貯水位状況



※水位は観測所の読み値
※記載の数値は速報値であり、今後変更の可能性があります。

第6回 阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会（県北方部）開催

～令和元年東日本台風による甚大な被害を受け、今後の防災・減災対策の方向性を議論～

1. 概要

○令和元年東日本台風に伴う出水により、阿武隈川流域では流域全体で甚大な浸水被害が発生したことを受け、協議会※を開催し、沿川市町村長等により今後の防災・減災対策の方向性についての議論を行った。

※阿武隈川上流では、近年の雨の局地化・激甚化を踏まえ、今後発生しうる大規模な浸水被害に備えるため、沿川市町村・県・国による『減災対策協議会』を平成28年4月から設置

2. 日時／実施状況

➤日 時：令和元年12月3日（火）14:30-16:00

➤場 所：福島テルサ 3階 大会議室あぶくま

➤出席者：市町村長をはじめ13名が出席

内容

- ・令和元年東日本台風の出水概要及び被害状況
- ・阿武隈川上流における今後の防災・減災対策の方向性について
- ・意見交換



協議会の様子(全体)

3. 令和元年東日本台風に伴う出水における対応や今後の防災・減災対策に関する主な発言内容

【福島市長】

・阿武隈川の水位予測の情報共有やTEC-FORCEによる技術的支援に大変感謝。このような支援が必要不可欠だが、そのためには国・県の体制強化が大事。市としても、貯留施設の設置をはじめとした流域対策等、ハード整備も実施していきたい。

【二本松市長】

・水防事業をはじめ、これまでの整備効果は大きなものであったが、今回は過去の洪水よりも規模の大きいものであった。今後、自主防災組織の立ち上げ、地区防災計画の策定を支援していきたい。

【伊達市長】

・梁川地区は自主防災組織の組織率が100%であり、人的被害もなかった。改めて、自主防災組織は必要と感じた。今後、的確な避難情報の発令や防災計画の見直しのため、専門的な立場からアドバイス出来る防災専門員を採用する。

【本宮市長】

・本宮市では全戸に防災無線を配布し、自ら避難を呼びかけたが、住民と行政の危機感に乖離があったと思う。町内会未加入者から犠牲者が出た。浸水想定区域内の住民には自主防災組織への加入を義務化することが必要ではないか。

【桑折町長】

・TEC-FORCE、路面清掃車等の派遣に感謝。佐久間川におけるバックウォーターによる浸水被害が主だったが、渇水防除活動により被害は最小限にすることができた。

【大玉村長】

・県で実施した支川の河道掘削によって浸水被害はなかった。実施されていなければ、越水していた。防災無線やエリアメールで避難を呼びかけたが、避難者は想定の20分の1程度であり、この結果については深刻に受け止めている。

【国見町 副町長】

・人的被害はなかったが、バックウォーターの影響もあり、滝川で決壊が発生した。滝川等の堤防かさ上げをお願いしたい。浸水想定区域で水害を想定した住民参加型の防災訓練を実施予定。

各関係機関の説明状況(一部抜粋)



福島市
(木幡 浩 市長)



二本松市
(三保 恵一 市長)



伊達市
(須田 博行 市長)



本宮市
(高松 義行 市長)



桑折町
(高橋 宣博 町長)



大玉村
(押山 利一 村長)



国見町
(佐藤 弘利 副町長)

第6回 阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会（県中方部）開催

～令和元年東日本台風による甚大な被害を受け、今後の防災・減災対策の方向性を議論～

1. 概要

○令和元年東日本台風に伴う出水により、阿武隈川流域では流域全体で甚大な浸水被害が発生したことを受け、協議会※を開催し、沿川市町村長等により今後の防災・減災対策の方向性についての議論を行った。

※阿武隈川上流では、近年の雨の局地化・激甚化を踏まえ、今後発生しうる大規模な浸水被害に備えるため、沿川市町村・県・国による『減災対策協議会』を平成28年4月から設置

2. 日時／実施状況

- ▶ 日 時：令和元年12月4日（水）14:00-15:30
- ▶ 場 所：郡山市役所 2階 庁議室
- ▶ 出席者：市町村長をはじめ9名が出席

議事内容

- ・令和元年東日本台風の出水概要及び被害状況
- ・阿武隈川上流における今後の防災・減災対策の方向性について
- ・意見交換



協議会の様子(全体)

3. 令和元年東日本台風に伴う出水における対応や今後の防災・減災対策に関する主な発言内容

【郡山市長】

- ・今回のような広域災害に備え、地区ごとではなく市内全体のハザードマップを作成し、全戸配布する。また、市内の小・中・高校においてもハザードマップを配布する予定。
- ・都市計画の中に河川計画を国でしっかり位置づけてほしい。大都市のない川はあるが、川のない都市はない。河川は都市の命運を握っている。

【須賀川市長】

- ・自主防災組織の設置促進と人材育成を行っていきたい。
- ・ソフト対策も重要であることは理解しているが、ハード整備が整っていない中でソフト対策を考えても説得力がない。少なくとも、あるべき治水対策をしっかりとやらなければならない。未着手部分は早急に整備する必要がある。

【玉川村長】

- ・気象台から送られてくる高精度な降雨情報は非常に役立った。
- ・過去の洪水の経験が活かされ、村民は農機具や車を高いところへ避難させていたため、それらの被害は少なかった。
- ・防災無線が浸水被害に遭い、使用出来なくなったことから、2階に装置を上げるなどの対策を実施予定。

各関係機関の説明状況(一部抜粋)



郡山市
(品川 万里 市長)



須賀川市
(橋本 克也 市長)



玉川村
(石森 春男 村長)



福島河川国道事務所長
あいさつの様子

第7回 名取川・阿武隈川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会 開催

- 阿武隈川下流と名取川流域の防災・減災対策をなどを話し合う「第7回 名取川・阿武隈川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会」を令和2年1月15日に開催。
- 台風第19号に伴う出水により、両流域では甚大な浸水被害が発生した。ハード整備（河道掘削、樹木伐採、排水機場の強化など）、ソフト対策（住民の自主的避難など）を各市町・県・国などが連携し、改定案をまとめる。

◇日時：令和2年1月15日(水)

13:00～15:00

◇場所：仙台河川国道事務所 大会議室

【出席者】

仙台市危機管理監、名取市長、角田市長、岩沼市副市長、白石市危機管理課長、柴田町長、丸森町長、亘理町長、村田町長、七ヶ宿町副町長、川崎町副町長、山元町総務課長、大河原町総務課長、蔵王町総務課長補佐
仙台管区气象台、宮城県、国土交通省

【議事】

◆各自自治体での今後の防災・減災対策の方向性について

【情報提供】

- ◆台風第19号に伴う出水時の対応について(宮城県)
- ◆「危険度分布」とリスク情報を重ね合わせて表示(仙台管区气象台)
- ◆台風19号出水における七ヶ宿ダムの効果
- ◆台風19号出水における釜房ダムの効果

○各構成員からの台風第19号による大規模浸水被害に対する主な意見

- ・排水ポンプ車、排水機場を増強してほしい。
- ・支川の洪水氾濫浸水想定域を設定してほしい。
- ・避難できない場合は垂直避難を心掛けるような住民への意識啓発が欠かせない。
- ・最新のハザードマップを住民へ周知することが大切。
- ・住民が自主的に避難行動をするマイタイムラインの作成。

○情報提供 「台風第19号に伴う出水時の対応について」宮城県

- ・氾濫危険水位等の情報伝達をホットラインにて実施
- ・河川流域情報システムの脆弱性の改善を実施予定

○情報提供 「危険度分布」とリスク情報を重ね合わせて表示 仙台管区气象台

- ・住民の自主的な避難判断や市町村の避難情報発令に繋がることを期待



仙台河川国道事務所長
あいさつの様子



丸森町 保科町長



角田市 大友市長



柴田町 滝口町長



協議会の開催状況



仙台市 佐々木危機管理監



名取市 山田市長



亘理町 山田町長



村田町 大沼町長

「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

- 令和元年台風第19号に伴う洪水により、阿武隈川では越水・溢水が発生し、本川上流部や支川では堤防決壊等が多数発生するとともに、本川下流部では大規模な内水被害が発生するなど、**流域全体で甚大な浸水被害**となった。
- 今後、**関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策**を行うことにより、**浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化**を目指す。

①河川における治水対策の推進

【ハード整備】約1,840億円

- 観測史上最高水位を更新するほどの大規模な洪水により、本川・支川で越水・溢水、堤防決壊、内水氾濫等が多数発生
- 本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

＜主なメニュー案＞

- ・国・県管理河川の堤防決壊箇所等、被災した河川管理施設の「災害復旧」の推進
- ・現在 実施中の「堤防整備」等の早期完成
- ・「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている「河川の水位を低下させる対策」等の順次検討・着手
- ・本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」、「準用河川」の整備促進
- ・内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」
- ・既存ダムの洪水調節機能強化



98.6k 左岸堤防決壊箇所(須賀川市)

※具体的な対策内容等は、今後の調査・検討等により変更となる可能性があります。

相互に
連携

土地利用や避難体制を意識した事業推進
施設整備計画を踏まえた避難計画等

【ソフト対策】

②減災型都市計画の展開

- 沿川都市の都市化の進展により低平地の新興住宅地等での浸水リスクが顕在化

→沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

＜主なメニュー案＞

- ・浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開
- ・支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成
- ・「特定都市河川」制度に準じた流域対策(例:雨水貯留施設等)
- ・高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定



下水道事業による雨水貯留施設の例(郡山市)

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

- 本川や支川の氾濫、内水など、地区毎に異なる氾濫形態が避難行動に影響
- 的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

＜主なメニュー案＞

- ・支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良
- ・浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施
- ・危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築
- ・県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

- 本川上流部では、背水が支川の氾濫にも影響
- 本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

＜主なメニュー案＞

- ・本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置等
- ・本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定



本川・支川合流部(本宮市)

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

→地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

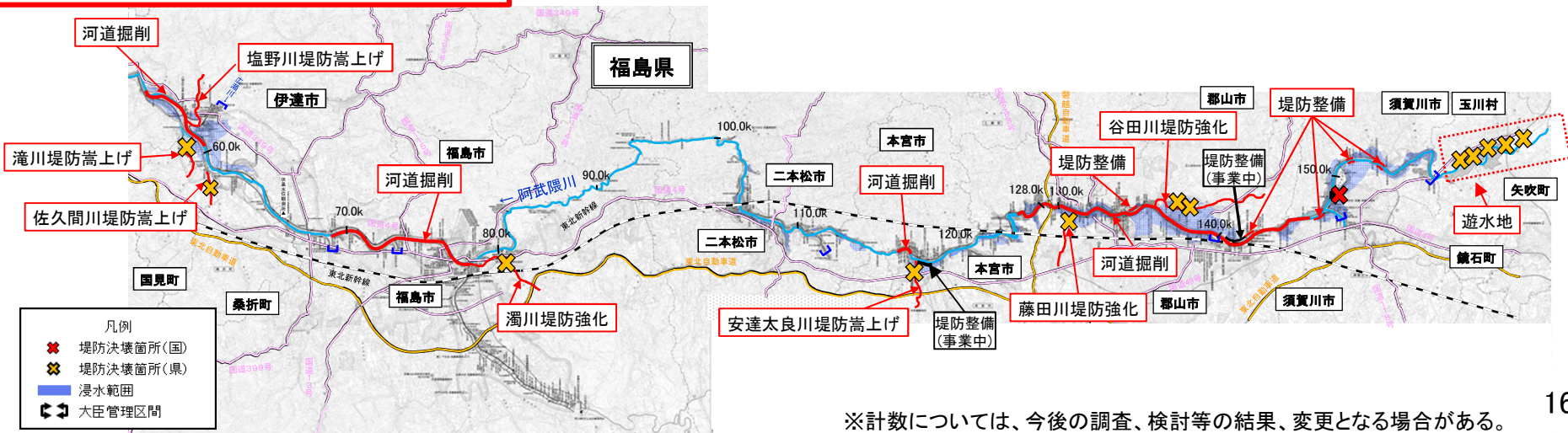
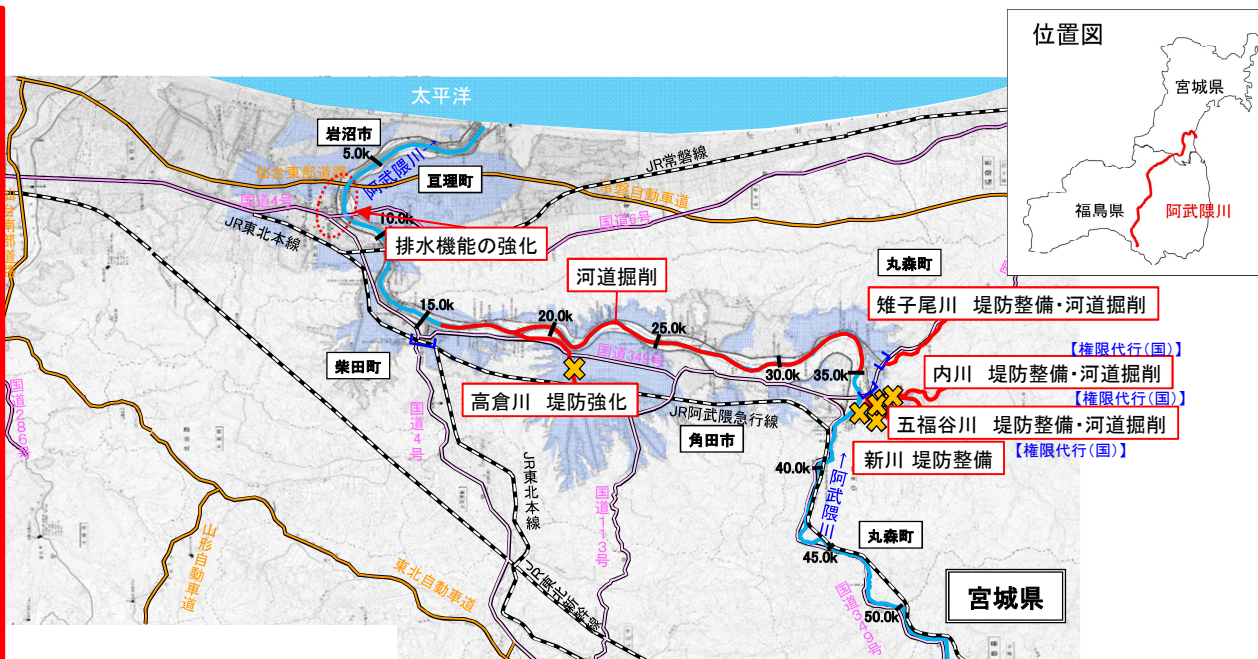
- ・流出抑制・氾濫抑制の取組、住民参加型の防災訓練、マスメディアと連携した情報発信等

「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

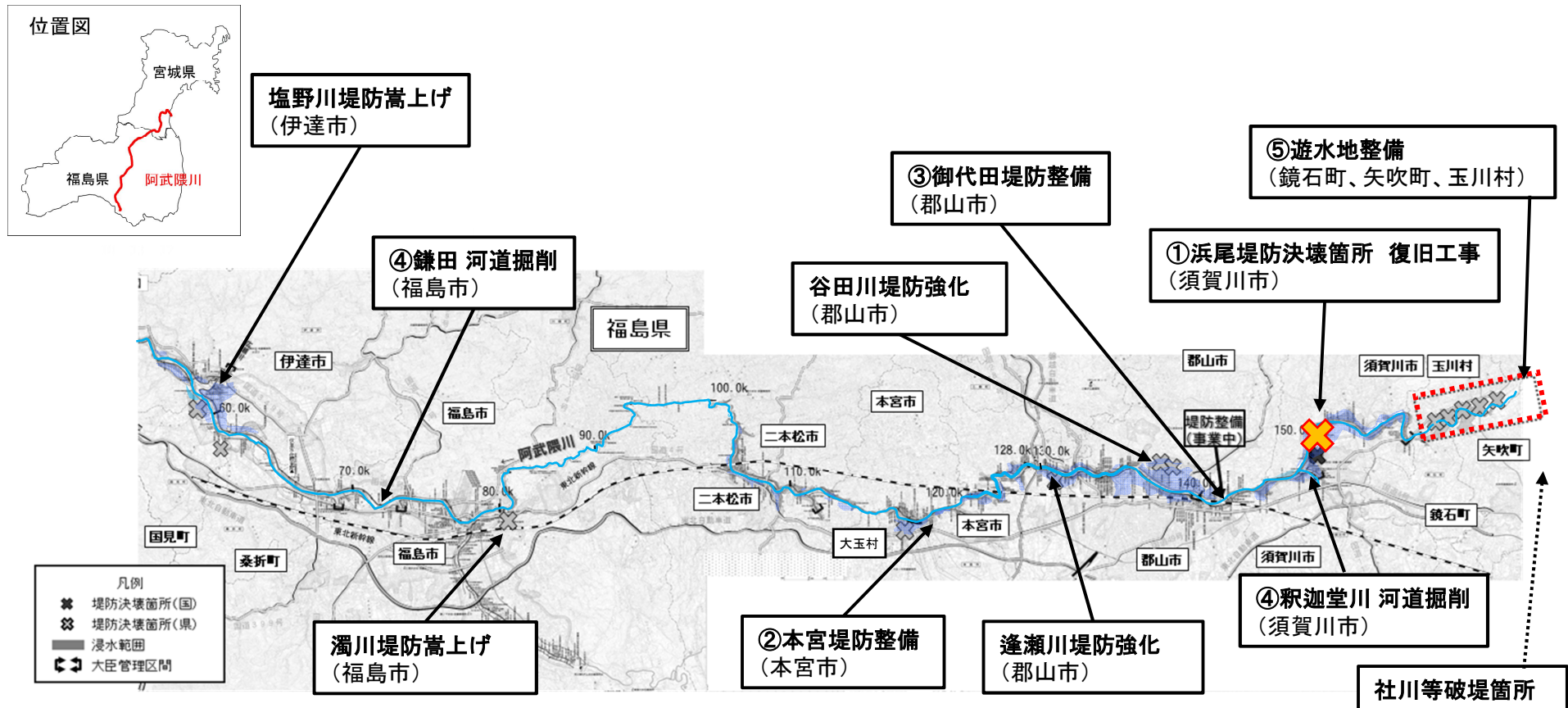
○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指します。

- 全体事業費 約1,840億円
- 事業種別
- 改良復旧事業
 - 国:阿武隈川上流(福島県内)
 - 全体事業費 約999億円
 - 事業期間 令和元年度～令和10年度
 - 国:阿武隈川下流(宮城県内)
 - 全体事業費 約215億円
 - 事業期間 令和元年度～令和6年度
 - 福島県: 約66億円
 - 宮城県: 約18億円
- 災害復旧事業
 - 国:阿武隈川上流(福島県内)
 - 全体事業費 約130億円
 - 事業期間 令和元年度～令和2年度
 - 国:阿武隈川下流(宮城県内)
 - 全体事業費 約99億円
 - 事業期間 令和元年度～令和2年度
 - 福島県: 約268億円
 - 宮城県: 約44億円



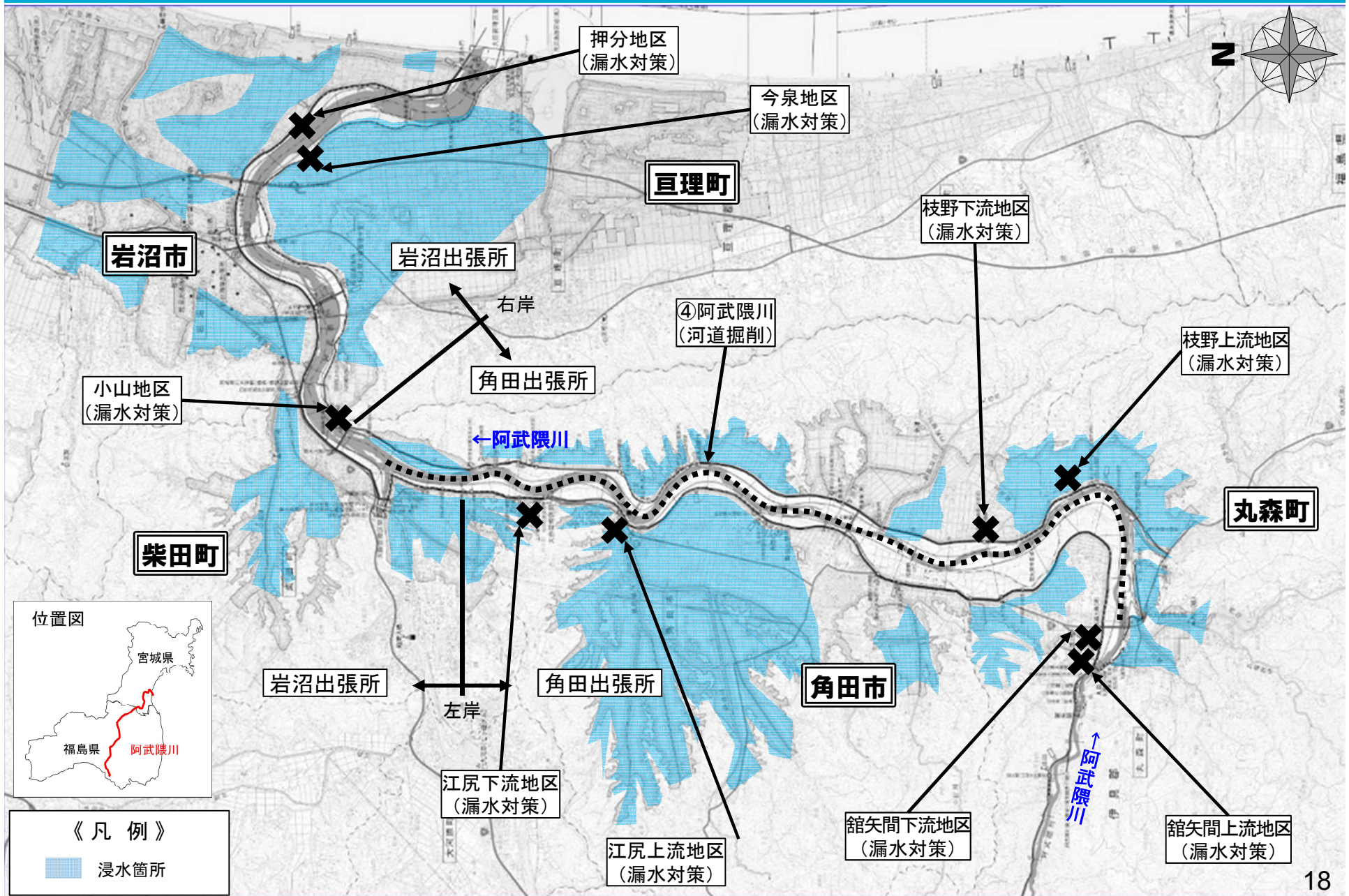
※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

緊急治水対策プロジェクト外 主要事業箇所(上流, R1~R2年度実施分)



- ④河道掘削・樹木伐採 <全川>
- ⑥河川監視カメラ設置 <全川>

緊急治水対策プロジェクト外 主要事業箇所(下流, R1~R2年度実施分)



①【須賀川市】浜尾地区 堤防決壊箇所 本復旧工事

○東日本台風で決壊した浜尾地区の堤防について、6月からの出水期に備えて行っていた本復旧工事を5月30日に完了。

洪水を貯留した浜尾遊水地 (R1.10.14)



決壊の様子 (R1.10.13)



○被災直後の様子



阿武隈川

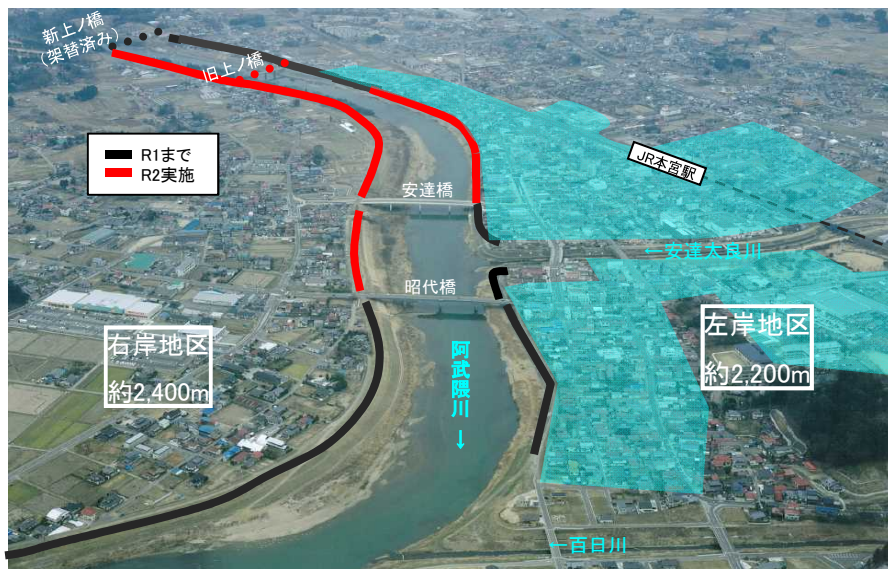
○本復旧工事完了後の様子



阿武隈川

②【本宮市】 本宮地区 左右岸築堤事業

- 6月までに嵩上げ対策を実施し、計画堤防の高さを確保したところ。
- 引き続き、残りの築堤工事を進めるとともに、左岸地区の宅地側道路及び広場・遊歩道、樋門整備などを進め、年度内の事業完成を目指している。



大規模洪水により浸水被害が発生(令和元年東日本台風)



対策前(東日本台風前)



嵩上げ対策状況



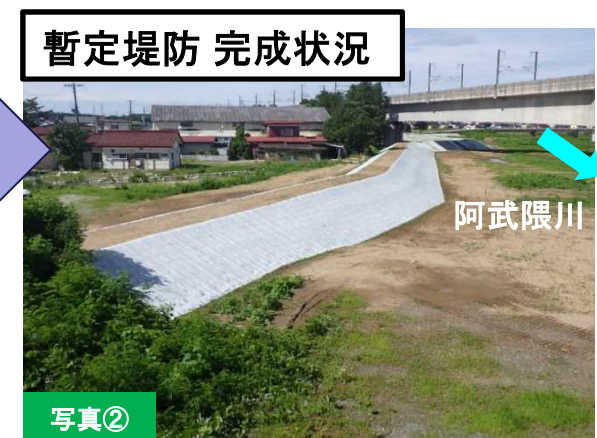
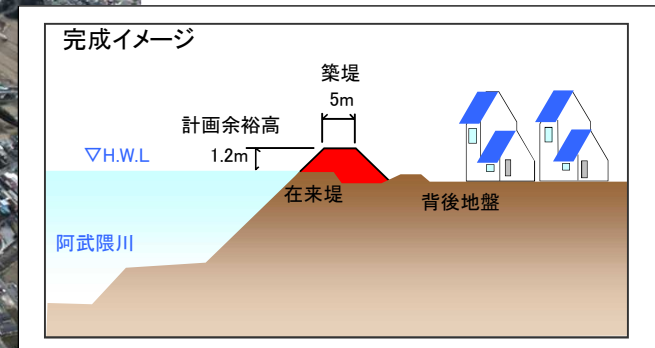
計画堤防の高さを確保
(令和2年6月中旬)

左岸地区 築堤工事完了状況



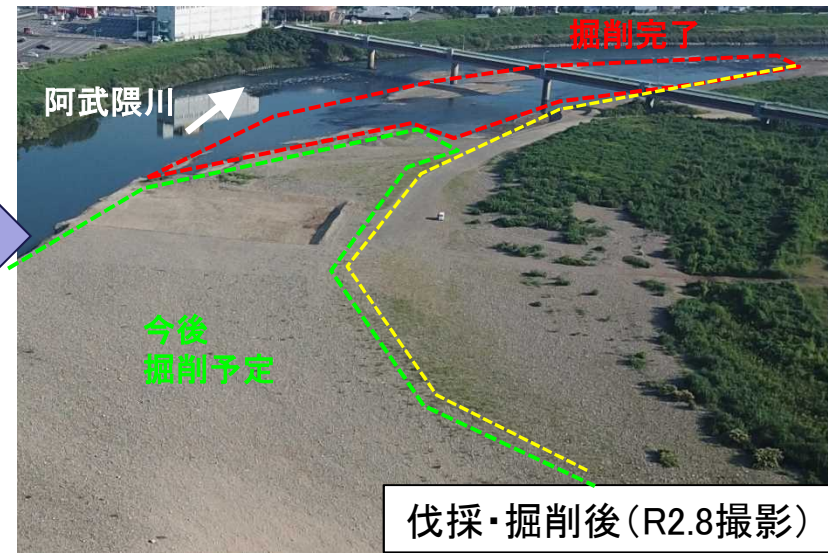
③ 【郡山市】 御代田（みよた）地区 築堤事業

- 東日本台風による浸水被害を受け、無堤区間の堤防整備に緊急着手。
- 本年5月までに暫定堤防を整備し、計画堤防の高さを確保。年度内完成を目指し、現在、事業実施中。



④河道掘削・樹木伐採 (例：福島市 鎌田地区)

○阿武隈川本川各地で河道掘削に着手し、現在推進中。上流(福島県)では、全体計画約220万m³のうち、本年度は約3割となる約60万m³の掘削を目指し実施中。また、樹木伐採は、本年度は約45万m²を目指し実施中。



(工事状況)



④河道掘削・樹木伐採 (例：須賀川市 釈迦堂川)

○阿武隈川本川各地で河道掘削に着手し、現在推進中。上流(福島県)では、全体計画220万m³のうち、本年度は約3割となる60万m³の掘削を目指し実施中。また、樹木伐採は、本年度は約45万m²を目指し実施中。

大規模洪水により浸水被害が発生(令和元年東日本台風)



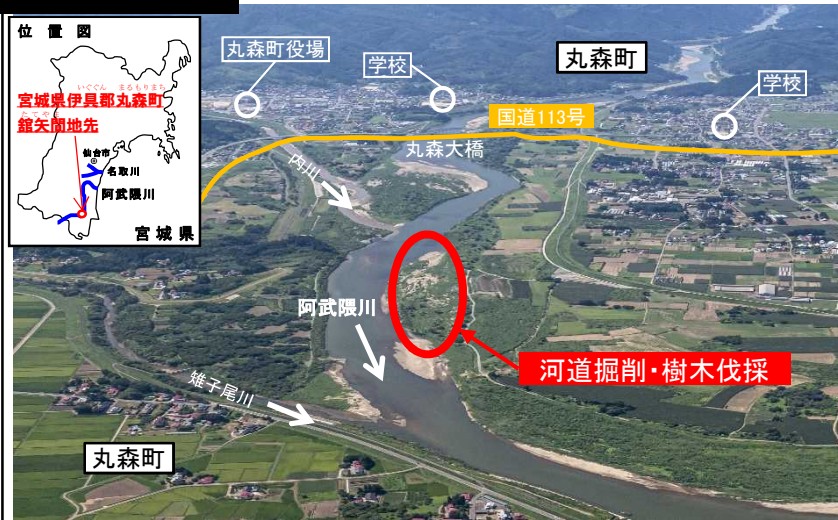
令和元年10月13日13時頃撮影(国土地理院)



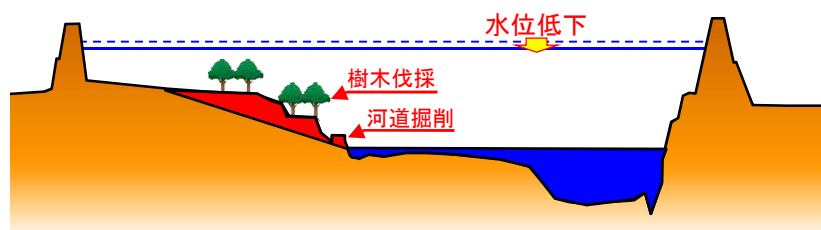
④河道掘削 (例：丸森町 館矢間地区)

○令和元年10月の東日本台風(台風第19号)で、甚大な被害が発生した阿武隈川において、「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」を推進しています。東日本台風と同規模の洪水が発生した場合でも、阿武隈川の水位を低下させるために必要な河道掘削・樹木伐採を実施し、早期に地域の安全性の向上を図っています。

対策内容



横断面図(河道掘削イメージ)



対策前



対策中



河川環境の有識者による現地調査

○令和元年東日本台風により被災を受けた阿武隈川上流においては多自然川づくりアドバイザーによる現地調査を令和元年11月29日に行い、須賀川地区の復旧内容についてアドバイザーから多自然川づくり※の観点より助言を頂いた。今後、災害復旧の事業検討に生かすとともに、事業実施にあたっては随時アドバイザーに相談を行う。

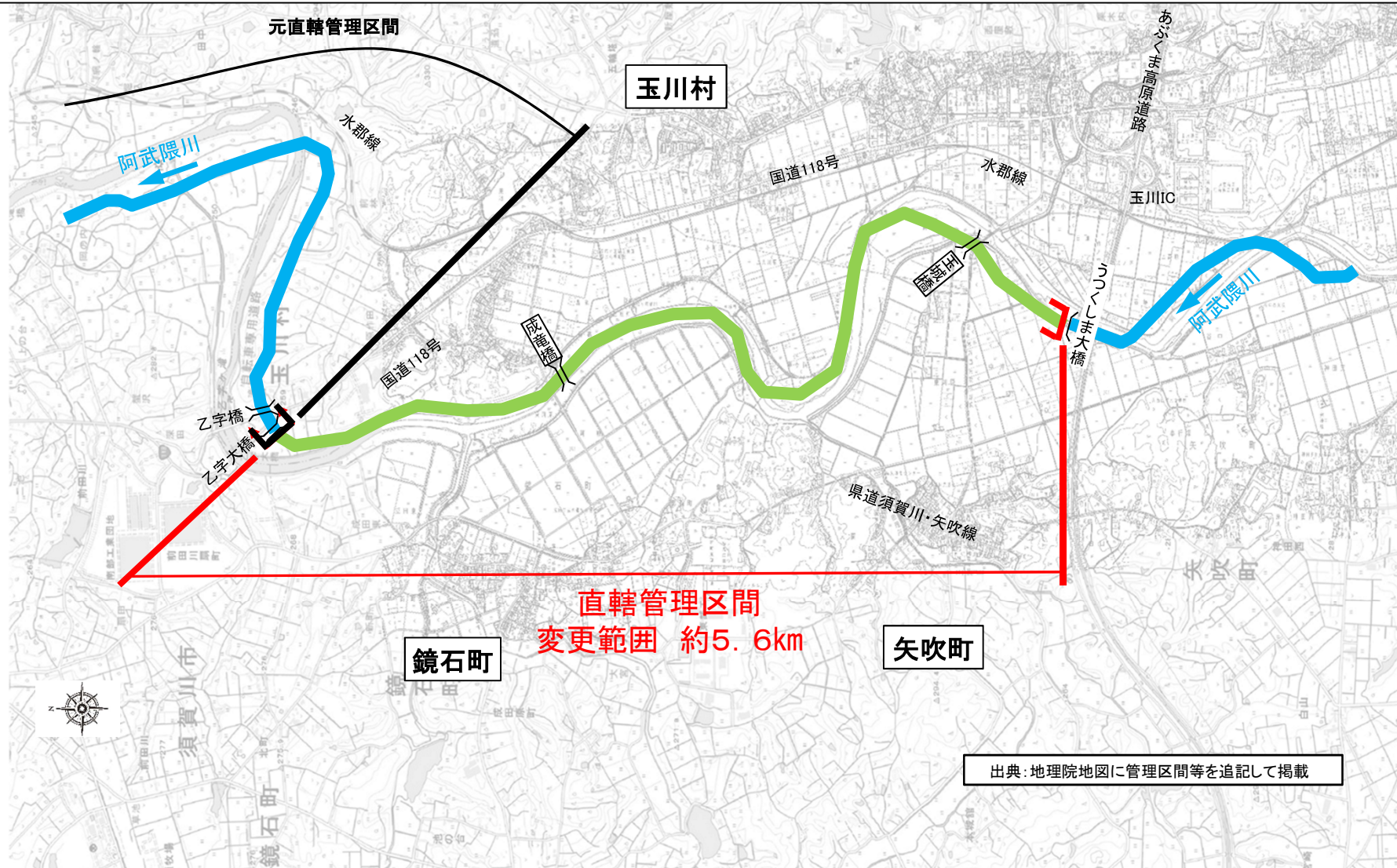
多自然川づくり: 河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うこと

○河道掘削、樹木伐採の施工にあたり、河川水辺の国勢調査アドバイザー(鳥類)による現地調査を令和2年6月17日、11月11日に行い、樹木伐採時の留意点などについて助言を頂いた。今後も事業の進捗に合わせ、随時アドバイザーに相談を行う。



⑤ 【鏡石町、矢吹町、玉川村】直轄管理区間変更範囲

- 上流部に遊水地群を整備していくため、令和2年7月1日付けで国管理区間を変更。
- 検討区間にあたる沿川3町村(鏡石町、矢吹町、玉川村)にご協力頂き、地元の皆様へご説明を始めたところ。今後、現地調査を開始する予定。



⑥阿武隈川 簡易型河川監視カメラの概要

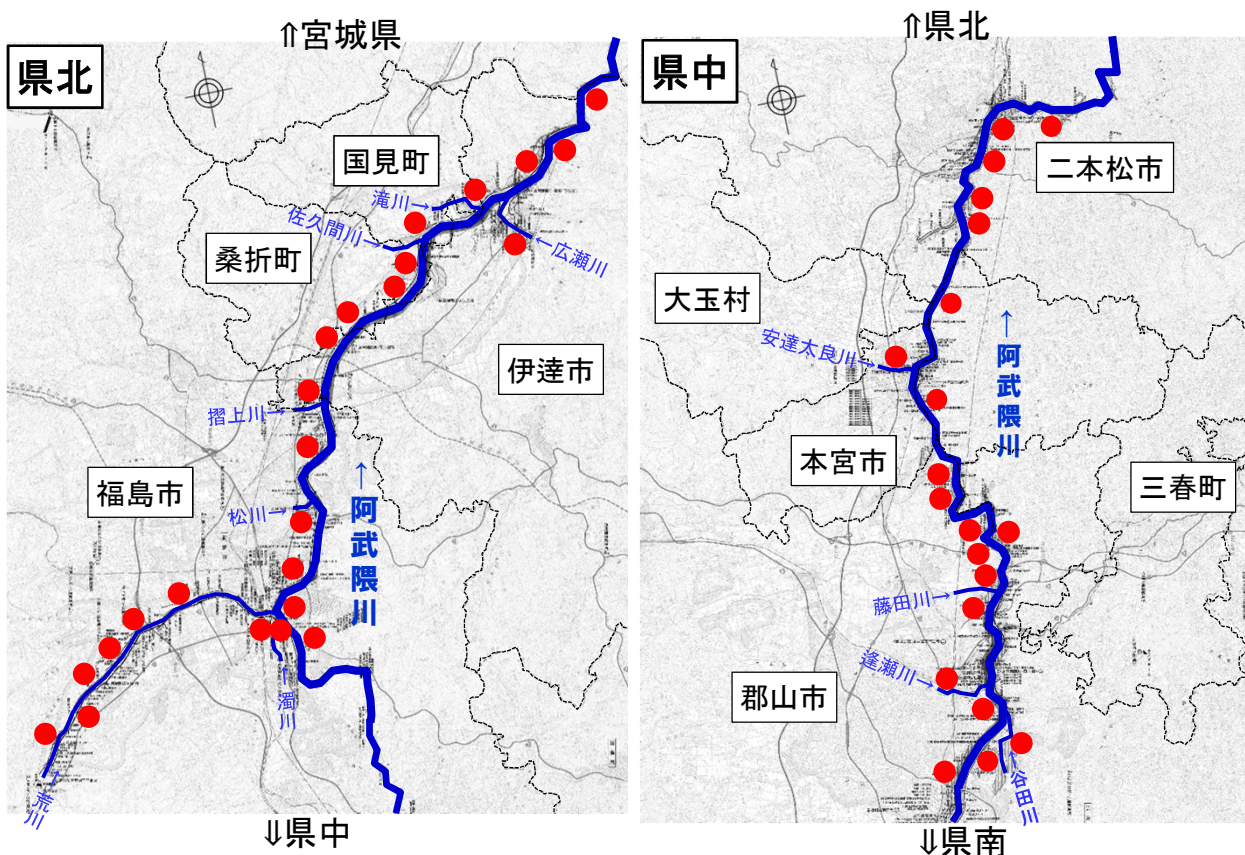
「川の水位情報」
<https://k.river.go.jp/>



- 河川監視カメラは、阿武隈川流域で82基(国)を設置していた。
- 今回、国管理区間の阿武隈川、荒川、釈迦堂川、笹原川、広瀬川、松川に計53基設置、福島県管理区間の安達太良川、逢瀬川、谷田川、濁川に計4基設置し、運用を開始。
- また、10月に仮設カメラを約13基、阿武隈川国管理変更区間(鏡石町、矢吹町、玉川村)に設置。
- 今後も、バックウォーター対策もふまえ、国・県で協力しカメラ・水位計の増強を図る。

新規設置位置図

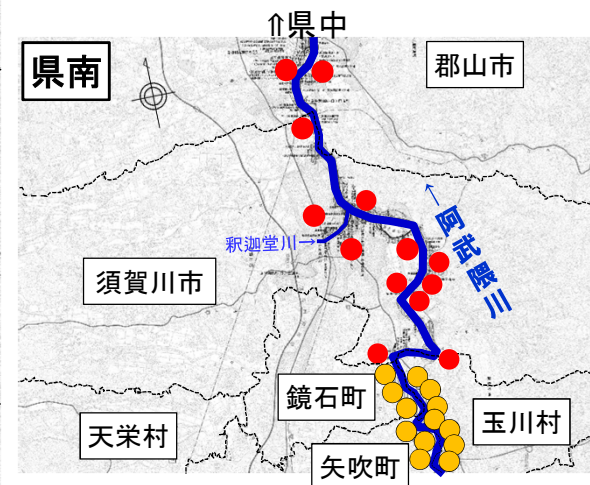
● : カメラ設置 (57基)



カメラ画像イメージ
 (安積町日出山2丁目)



カメラ設置イメージ

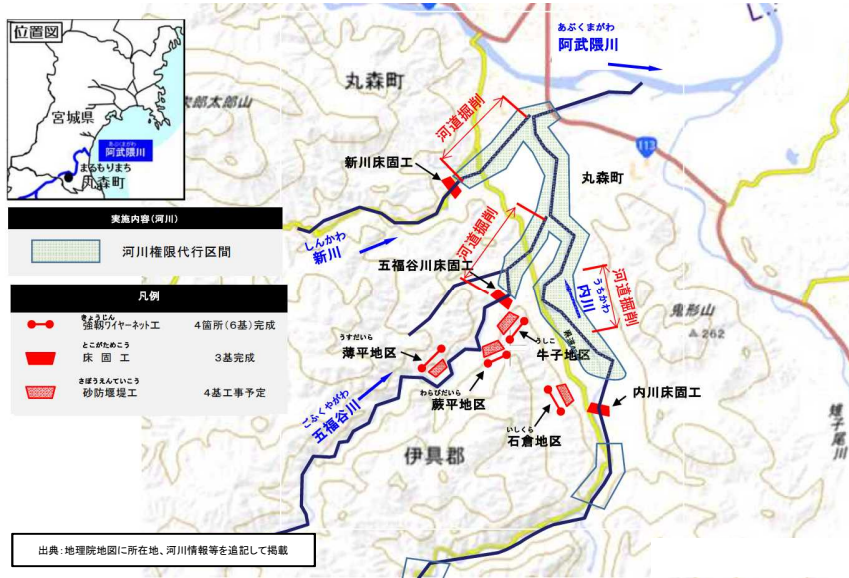


● : 仮設カメラ設置済

〔当面、国・沿川自治体で確認できる体制とし、システム構築後、「川の水位情報」等で公開予定〕

阿武隈川水系内川、五福谷川及び新川の特定災害復旧等河川工事

- 令和元年東日本台風により、甚大な被害を受けた丸森町の河川・砂防・道路の災害復旧事業を加速化するため、「宮城南部復興事務所」が新設されました。
- 東日本台風の記録的な大雨により、堤防決壊(18箇所)した宮城県が管理する阿武隈川水系内川、五福谷川及び新川において、権限代行により河道掘削、堤防強化等の改良工事を実施しています。



代表事例

河道掘削(内川)

赤堀橋上流 施工前



赤堀橋上流 施工後



河道掘削(五福谷川)

五福谷橋下流 施工前



五福谷橋下流 施工後



被災地連携による河道掘削土有効活用

- 令和元年東日本台風により、宮城県伊具郡丸森町の阿武隈川水系内川流域において大規模な土砂・洪水氾濫が発生し、宮城県管理の内川、五福谷川及び新川の河道内に大量の土砂が堆積したため、国土交通省では宮城県知事からの要請を受け、権限代行により令和2年2月下旬から河道掘削を行ってきました。
- 河道掘削工事で発生した残土については、亶理町と連携し、東日本大震災で地盤沈下した荒浜海水浴場の砂浜の嵩上げに活用することで丸森町、亶理町双方の被災地復興に繋がりました。



荒浜海水浴場河道掘削残土敷き均し施工状況

①河道掘削状況(丸森町)



②ふるい分け状況(丸森町)



③ダンプ運搬状況(亶理町)



④敷き均し状況(亶理町)

